

Patient Information

ID	#####	主治医	XXX
性別	男性	検者	XXX
年齢	63歳	手術日	##年 ##月 ##日

診断および術式 頭蓋咽頭腫。右前頭側頭開頭、右頬骨弓切除、腫瘍摘出術。

Comment

記録電位
ERGおよびVEP

赤字で示した箇所の明記が必須です。

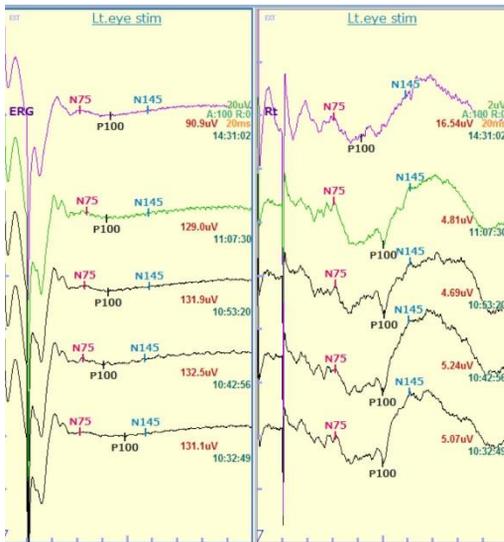
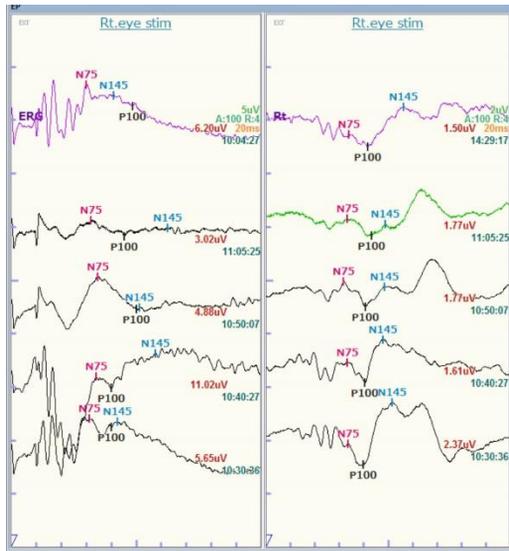
記録部位（モンタージュ）
両側乳様突起部、Inionの5 cm上方、5 cm外側

所見
コントロールから患側の右刺激でERGおよびVEPの振幅が低下していた。健側の左は振幅も大きく不変であった。
患側の右は胸骨弓切除のために前頭部の皮弁翻展が強くなり、ERGの著明な低下、VEPの振幅低下を認めたが、頬骨をはずした後に皮弁を戻すことによりERG、VEP共に回復した。VEPの振幅低下を来さない範囲で腫瘍の亜全摘を施行した。

判定
患側のVEPの軽度振幅低下。術後に視力障害は認めなかった。

ERGおよびVEP

スケールが記載された記録を提出するか、余白に明記してください。



申請者の署名（記名）が必要です。

Signature ○ × △ □